

がっさく 合作しようよ!②

かんせい
完成しなかった絵に「点苔」を足して、いのる。
つまり、「てんてん」のこと。

この作品は、葛生の吉澤象水さんが描きかけのまま亡くなってしまうので、次のようにして完成させました。

- ① 田崎草雲（足利のとても有名な画家）さんが「点苔」を足して絵を完成させ、
- ② これを息子さんが、象水さんに会ったことのある有名な学者の秋月種樹さんに見せて、
- ③ 秋月さんが「絵にあわせた有名な中国の詩」と、自分が書くまでの話（右の①②）を書いた。

遠上寒山石径斜／白雲生処有人家／停車坐愛楓林晚／霜葉紅於二月花

とおくのさむざむとしたやま、いしのおおみちをななめにのぼってゆく／しろいくもがうまれるような あんなたかいところにいえがある
くるまをとめて ゆったりすわって おわりにちかいカエデのこうようをたのしむ／しもにさらされたはっぱは はるにさくはなよりもあかい
※この詩は、中国の唐（とう）の時代の詩人 杜牧（とほく）の有名な詩「山行（さんこう）」です



吉澤象水翁以明治十六年四月三日没臨没作此圖點
苔亦施而卅靈補之翁之子葛里携到東京時余偶同

吉澤象水翁は明治十六年四月三日に亡くなった。
死に臨みこの図を作り、「点苔」を施さなのまま
だったのので、草雲がこれを補った。（以下略）

「よしざわしようすい」さんは、1883ねん4がつ3かになくなつた。
なくなるまえにこのえをかいたけれど、しあげの「てんたい」をかかないまま
なくなつたので、「そつうん」さんがかきました。



草雲が「白石山房」で
これを補った。
歳年は七十

「そつうん」は、じぶんのアトリエで
これにかきました。ねんれいは70さい

というわけで、色鉛筆などで「点苔」をかきたしたり、あいて
いるところに、絵に合う詩や俳句を書いたりしてみましよう。

てんたい 「点苔」とは？

こけ くさき
苔や草木などをあらわすために
やま いわ てんてん
山や岩などにうつ「点々」。

よしざわしようすい が たざきそううん ほひつ
吉澤象水画・田崎草雲補筆
・秋月種樹賛《山水図》
縦 151.9× 横 41.5 cm